

令和2年度第2回徳島県西部地域政策総合会議 会議概要

1 開催日時

令和3年3月5日（金） 午後3時30分から午後5時00分まで

2 開催場所

西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室

3 出席者

(1) 政策総合会議委員 13名出席

伊庭委員，金村委員，河野委員，北室委員，近藤委員，澤田委員，武田委員，殿谷委員，土井委員，西村委員，藤田委員，真鍋委員，翠委員

(2) 計画推進評価部会

篠原副部長

(3) 管内市町

美馬市 藤田市長，つるぎ町 大垣副町長
東みよし町 横川企画課長

(4) 県関係

飯泉知事，勢井局長，仁木副局長，山川地域創生観光部長，
上岡保健福祉環境部長，國安農林水産部長，旭県土整備部長，岡久政策調査幹他

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の改善見直し（案）について

(3) 閉会

5 配付資料

資料1 徳島県西部地域政策総合会議委員名簿

資料2 令和2年度第2回徳島県西部地域政策総合会議 配席図

資料3 徳島県西部地域政策総合会議設置要綱

資料4 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」のR3年度に向けた見直し（案）

資料4-1 令和3年度西部圏域振興計画「数値目標」一覧表

資料4-2 数値目標の「見直し」状況

資料5 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の改善見直し（案）

資料6 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」第5章（令和3年度版）（案）

（副局長）

ただ今から，令和2年度第2回徳島県西部地域政策総合会議を開会いたします。

なお，本日公務の都合により，飯泉知事の到着が10分ほど遅れるという連絡がございましたので，お伝えさせていただきます。

委員の皆様のご紹介ですが，資料1の委員名簿により代えさせていただきます。また本日，3名の委員の皆様からご欠席とのご連絡をいただいておりますのでご報告をさせていただきます。

それでは，当会議設置要綱第5条の規定によりまして，西部総合県民局長が会議の議

長となり進行ということになっておりますので、ここからの進行については、局長が行います。よろしくお願いいたします。

(局長)

委員の皆様方、また各市町の皆様方には、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は、「徳島県西部圏域振興計画(第4期)」の来年度に向けての見直し案について事務局より説明し、その後、計画の見直しをはじめ、圏域の振興全般につきまして、全委員の皆様からご意見をいただき、その後、計画推進評価部会の副部長さん、そして、市長さん、町長さんからご発言賜りたいと存じます。

なお、本日、飯泉知事は新型コロナウイルス感染症対応のため、急遽、16時30分に退出させていただくこととなりましたので、それまでにいただいたご意見に対し、10分程度いただきまして、最後にコメントさせていただきます。

それでは、計画の改善見直し(案)につきまして、事務局から説明いたします。

(事務局)

資料4、資料4-1、資料4-2により説明

(局長)

それでは、ただいま説明のありました、計画の改善見直し案や圏域振興全般につきまして、まず委員の皆様からご意見をお伺いしたいと存じます。

(委員)

まず最初にお礼から申し上げさせていただきたいと思います。昨年コロナの影響もありまして、大変な状況にありましたが、迅速な県単事業などを頂きまして、今回こちらの政策の中にも入れていただいておりますように、目標も達成いたしまして、来年度に向けましては、上方修正のほうでいくという形で、林業関係者一同頑張っていきたいと思っておりますので、本当にありがとうございました。

そして、次にお願という形で、言わせていただきたいのが、増産に向けてですけど、増産に向けて、中で人の雇用面についても上方修正していただいて、そういうことあるんですけど、やはり山の仕事をやる上で、一番今ネックとなっているのが、やはり林道、そしてまた林業専用道等がどんどん伸びていってもらって、その中でフィールドといたしまして、環境税の中で今、山の調査、森林調査等ですしていたものを有効に活用するためにやはり道というものがかなり重要になってこようと思います。その辺も含めてどうぞよろしくお願いいたします。

それと、あと雇用面の話になるんですけど、やはり林業関係者のほうといたしましても、積極的に毎年雇用したいという形で、どんどん受け入れをしていっているところではございますが、やはり人材不足ということもあって、その中で徳島県さんといましては、アカデミーという形で、1年間試験とか色々なものが、資格とかを取った方がどんどん山のほうに毎年入ってきてくれることで、非常にありがたいこととございます。その中で、今のところ西部の地域というのはなかなか徳島の市内から遠いという関係もあってですかね、なかなかこちらのほうに就職していただける方もちょっとまだ少ない状況にもあります。その中でまたアカデミーの方が積極的にこっちでインターンシップが出来るような住宅とかそういうものが進んでいってほしいなと思っておりますので、合わせてお願いして発表させていただきます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

(委員)

コロナが始まって1年が経過しようとしております。私がコロナが始まってから感じ

ていること、そしてポストコロナということで出口に向かって進んでいる中で、少し課題をお伝えさせていただけたらと思います。

パンデミックが始まって1年が経って、けどもう今3月から医療従事者のワクチンであるとか、6月にワクチン接種が始まって、年内いっぱい、出口がなんとなく見えてきたのかなと感じています。当初は、飲食とか観光、宿泊に大きなダメージが出ました。また、イベント、お土産物、冠婚葬祭にもすごく大きな影響が出ていました。しかしながら、建築であるとか土木、そういった業種に関しては、すごくいいんですよ。その業種による差がすごくありますし、今は1年が経って厳しい中でも、その中で格差が出ているという状況をすごく感じています。その中でも徳島県からは、本当にたくさんの助成金であるとか、補助であるとか、もちろん東みよし町もクーポンであるとか、いろんな施策をしていただいて、本当に感謝しているところでもあります。ただですね、私の周りの経営者でも、かなり廃業、倒産が出てきています。おそらくこれから出口が見えたといえ、加速してくるんだろうなと感じています。コロナの対策で前向きなものって結構あるんですよ。業態を変えたりとか、環境、ニューノーマルに対応するものであったりとか、すごく手厚いサポートがあると思ってますけれども、実はリストラクチャーっていう意味で再構築という部分に関しては、皆さん困っているのが現実だと思います。統廃合であるとか、営業所の撤退であるとか、そういったものに関して、なかなか実は費用がかかるっていう意味でできていない、手が付けられないっていう状況もあるのが事実です。事業承継にも関わってくる話なんですけど、とにかく前向きな援助だけではなく、少しリストラクチャーの撤退であるとか、例えば今、借入に関して、リスケされている企業も結構あるんですが、そういったところへのサポートであるとか、本当に困っている事業所がございまして、その事業承継も含めて相談窓口であったり、逆にそういったところへの助成があると、事業所として将来的な再構築の事業計画も必要ではあると思うんですけども、撤退とか縮小するところに対しての助成もあってよいのかなと感じております。

(委員)

私も美馬市に居住して11年が経ちました。観光事業にも携わり、にし阿波における観光コンテンツというものは他県の有名観光地に引けを取らない程充実していると常々感じております。しかしながら、この観光コンテンツやにし阿波の魅力というものが本当に伝わっているのかなということも感じております。これは弊社にも言えることなんですけれども、過去の成功事例や他社の取り組みのまねをして満足をしていないかということだと思っています。これから今後、人口減少社会に求められ、生き残っていくためには、地方や各企業のオリジナリティーを最大限に活かすこと。そのためにはなくてはならない存在を目指す必要があると思っています。振興計画の各項目の推進と同時に、にし阿波のオリジナリティーを最大限に発揮するために、今一度にし阿波独自の強みを再認識し、どう活かすかを考えるいい機会であると感じております。そして、にし阿波のまだ見出していない新しいことも探す必要もあると思っています。にし阿波というものは、観光においては、強みの一つとして、地理的な優位性、これが言えると思います。香川県、愛媛県、高知県ともアクセスが非常にいいこと、それもありませんか、弊社の観光施設も、来館者は徳島県民よりも香川県民が多いと。いいことか悪いことか分かりませんが、実情でございまして。現状、コロナ禍のためマイクロツーリズムを推進しておられますが、遠からず近からず四国内からの誘客ってのを十分期待できますし、ニーズも大いにあると思っています。実際にそういう声も隣県からは聞こえてきております。にし阿波から隣県の誘客を図り、県東部、県南部に繋げていく。また鳴門から、県西部、県南へ繋げていく、ネットワーク作りの強化、特に県内各DMOが今まで以上に連携を図り、一体となれば活性化していくのではないかと感じております。是非アフターコロナに向けて、県内の統制及び隣県の各自治体や観光協会との連携強化、誘客推進の積極的な取り組みをお願いしたいと思っています。

(委員)

昨年 of 会議の時に知事さんを始め、皆様、首長さんのほうにもお願いをしたんですけども、やはり産業も観光産業と非常に密接に結びついている土地柄ということもありまして、売り先を失うとか、外に出て行く機会を失うとか、イベント等全て無くなってしまうということで、非常に内にこもってじっと我慢する一年というふうになりました。一時的には、備蓄ですとか、どのような感染経路があるのか分からないっていう時には、食品関係は波に乗って、一時的に出荷なども伸びたところもあるんですけども、またそれも経済状況ですとか、いろんなものが十分に行き渡り始めると元に戻る、観光がないために全くマイナスになってしまう、冠婚葬祭などがなくなるので動かないというような状況が今も続いております。昨年も思ったんですけども、息の長い持続できる産業というのを続けていきたいので、もう一度このコロナが収まった後でも、ブランディングをもう一度させていただいて、にし阿波は非効率で少量生産なんですけれども、強い物づくりというのをやっていけるように支援を賜りたいと、やはり重ねてお願いをさせていただきたいと思っております。当方におきましては、「入魂」というブランド商品の再構築ですね、それと共にあと一つ、今、持ち上がっておりますのは、この半田そうめんの出荷量、物流の強みがありますので、この物流を活かして、物流センターなどを作らせていただきまして、このあたりの農業生産物も抱き合わせにさせていただいて、出荷場として使っていただいて、世界農業遺産のブランドの商品なんかと一緒に広く発信して行けたらいいなと思っております。その物流センターを作るにあたりまして、色々今知恵を集めているところですけども、何か支援策とかそういう補助政策とかがありましたら教えていただければと思っております。また、個人的に弊社は今年の夏、お盆明け頃になろうかと思っておりますけれども、つるぎ町の貞光というところで、築100年の古民家をお借りして、半田そうめんを食べていただける飲食店、それと宿泊施設をやらせていただこうと思っております。その場所を活かして、当地の伝統とか文化、農業、それから自然を皆さんに体感していただけるような交流の施設にさせていただきたいと思っております。コロナが落ち着きましたら、たくさんの方にそこに集まっていただき、またワーケーションですとか、サテライトオフィス、それからコワーキングですね、それでも使っていただけるような場所にしたいと思っております。商品開発なども頑張らせていただいております。カップ麺の半田そうめんを作らせていただいたりですとか、自動販売機を設置しまして、コロナの時代にも安心してお買い物していただけるなどの新しい方策も頑張らせていただいております。まだまだちょっと足りないところもあるかと思いますが、何か支援とかご助言いただければと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

(委員)

安心・安全・新鮮な野菜を求める消費者が増えている昨今で、産直販売をメインとする我が社の売り上げは毎年伸びている状況です。そこで課題となるのが、農業機械の大型化による効率化と、雇用の拡大であります。夏、1枚が1ヘクタールの畑が並ぶ高原の農場では大型機械導入によるメリットは確実に出ています。ですが、冬の平地に降りての畑は、広くても10アール、形が様々と大型機械になるにつれ、無駄な作業が増えたり、機械が狭いためにぶついたりして壊したりよくしています。ここ数年、農地の集約を課題に挙げていますが、一定の地域内に農地を集めるという意味での集約は出来ていますが、地権者の異なる数枚の畑を1枚にするような集約には色々壁があり、実現できていません。中間管理機構などで話はよく聞くのですが、畑、田んぼを貸して下さる地権者の不安を取り除かなければ可能とはならない話です。私の今までの実績と公的機関の後押しで、県西部のモニター的な先駆者として、こういうことをやっていきたいと思っております。

その他、課題として、常時雇用の若手社員を受け入れていきたいと思っております。こう

いう課題に対しては、様々な制度で支援の手があるようで、金銭的にはハードルは下がっていますが、私の求める人材と相手の求める職場のマッチング、こういうことに少し不安があります。農業人として経営者としてスキルアップできる場や、就農希望者とのマッチングの場がこれからも増えていけばいいと思っています。よろしくをお願いします。

(委員)

まず去年の美馬青年会議所の活動としましては、やはりコロナの影響で多くの事業というのが中止となりました。その中で39年間続いていた、地域の子どもの相撲大会というのをやってまして、これも中止という形になっています。コロナの影響は、色々な観光産業だとか、飲食業とかに影響が出ているんですけども、僕たちで何か出来ないかということで、去年の5月に美馬市・つるぎ町の地域でテイクアウトできるようなプラットフォームづくりということで、「テイクアウト美馬」というものを立ち上げました。飲食店の方と、住民の方を繋ぐポータルサイトみたいなものを作りまして、なかなか飲食店に來れない状況の中でも、飲食店の食べ物を食べれるようなテイクアウトということでやらしていただいております。1年間、今で3月なので、1年弱ぐらいですかね、サイトのアクセス数なんかの結果・検証などもしております、1日少ないんですけども、20件30件くらいのアクセス数があるという結果になっております。ここで、やはり3番の1ですね、「デジタル社会への適応」ということで、実際に会って人と話すということも難しくなってきたりする中で、デジタル化に向けた取り組みというのを今後青年会議所としても推進をしていきたいと思っております。まずは、地域の方たちと行政と僕たちとが、パートナーシップをしっかりと組んでですね、プラットフォームの構築をしていったりだとか、やはり誰も使えないものを作るというのはできないので、しっかりそういったところを対応しながらやっていきたいと思っておりますので、またご協力の程よろしくをお願いします。

(委員)

西部防災館では、主に防災啓発や健康増進についての講座を毎月開催しています。新型コロナウイルス感染症対策として、来年度からは、コロナ禍でも地域の方が講座に参加しやすいようオンラインを活用した講座の実施を考えています。また、災害時中心となるのが、自主防災組織の方です。当館では、自主防災組織活性化研修会を年4回開催しています。しかし自主防災組織との繋がりが少なく、広報が行き届いていないことと、山間部の自主防災組織の方に参加していただけていないことが現状です。そこで、自主防災組織活性化を図るために、オンラインの講座開催時、開催場所の確保とオンラインの接続、チラシの配布などを手助けいただければと思います。市町村と共に、自主防災組織活性化を推進していけたらと思っていますので、よろしくをお願いします。

私ごとではありますが、今1歳9カ月の子どもがいます、美馬町で住んでいるんですけど、美馬町にはちょっと子どもと一緒に遊べる場所が少ないように思います。脇町まで20分30分かかりますので、美馬町にある地域の公共施設などにキッズスペースなどの遊べる場所があれば嬉しく思います。

(委員)

私はジオパークという事業を三好市が行っております、専門員をしているんですけども、活動が今の時点でだいたい4年になります。けども、この3年を過ぎてコロナになってですね、活動自体が地域の啓発であるとか、防災ツーリズム、保全、教育といった形のをまずは地域の人たちと一緒に考えながら活動していく中で、このコロナ禍になってしまったことで、やはり活動自体が今までと同じようにならなくなった、より考えさせられる1年だったなというふうにと個人的には思っています。その中で、この振興計画の中にも書いてありますとおり、3つの国難ですよ、新型コロナウイルスとか、人口減少、災害列島、この3つは私たちのやってるジオパーク活動においても、す

ごくキーになるところです。しかもこれらは、結構関連してたりもする問題だと思っ
まして、どうかこのウィズコロナ、そして、このコロナのあとに向けて活動をやれる
ところからやっているとあります。その中で、今年度2020年度にはですね、私ども
三好ジオパーク構想推進協議会というものを5月10日に発足しました。当初であれば、
こういう形で集まってというのが希望だったんですけども、コロナ禍における活動だ
ったので、書面決議であるとか部会を数多く開いて皆さんの意見を伺いながらして
いるところです。まだまだ、40近くなる団体さんに入っただいて、活動の方向性を今見
出している最中ですので、是非ここでも県の方とも協力していただきながら、今4つ
の活動をあげましたけれども、一緒に推進していただけたらなというふうに思います。

(委員)

第1回会議におきましては社会福祉協議会の活動について紹介させていただきました。
今回はその活動についての詳細だったり、日頃の活動の中で感じていることについて
もう少し具体的にお話させていただけたらと思います。

社協では生活困窮者支援として生活再建や維持のために生活福祉資金の貸付を行
ったり、コロナ禍において収入が減少した世帯に対して少額の費用の貸付を行う緊急
小口資金や、生活再建までの間に必要な費用の貸付を行う総合支援資金に関する
相談を行っています。新型コロナの影響が長引いていることなどから、この緊急小
口資金については2021年または2022年の住民税が非課税世帯には一括して返済を
免除することが、国において決定されたところで、総合支援資金についても再貸付
が開始するとともに返済を免除する要件の検討が続けられているところです。

東みよし町社協ではこのような貸付相談に加えまして、平成29年12月より生活困
窮者に食品などをお届けするフードドライブ活動、フードバンク活動といいますが、
これに取り組んでおります。フードバンク活動は食品の支援だけではなく活動を通
じて人との繋がりができたり、次の支援へとつながったりといった強みを持ち合
わせております。前回会議でこの活動を西部圏域全体で広域的かつ効率的に実施
できる仕組みづくりを行うための具体的協議の場の設定などをお願いいたしました。
今年度2市2町の関係機関と協議を重ねまして、この4月から「フードバンク・に
し阿波」としてようやく活動を開始する運びとなりました。しかしながら、実効性
ある安定的な運営には厳しい道のりが予想されることなどから、引き続き管内社
協へのご協力やご支援をお願いしたいと思っております。

また東みよし町社協においては、新型コロナの影響によりまして関係者からのひ
きこもり相談も増えているところです。引きこもり相談では、相談者から相談窓
口が分かりにくいといったご指摘だったり、何件か電話相談してやっとの思いで
こちらまで繋がったといった事例もありました。全国的にも新型コロナの影響が
長引いていることから、引きこもりや自殺者、とりわけ女性や若者の自殺者が
増えてると新聞等で目にしているとあります。引きこもりや自殺予防におい
ては、相談しやすい環境づくりであったり相談窓口から必要な支援へと繋が
っていく重層的な支援体制が重要であると考えております。誰もが自殺に追い
込まれることのない社会の実現を目指して、関係機関等と連携し、相談窓口の
周知であったり支援体制の充実を図るとともに、特に将来のある若者の自殺予
防に焦点を当てた対策についてもお願いしたいと思っております。以上よろしく
お願いします。ありがとうございました。

(委員)

まず、この見直し案については厳しい三つの国難を考えて、きめ細かに施策を
作っていただいているなど感じております。また知事さんが来られております
ので、わざと言うのではないんですが、厳しい観光事業の中で「Go To
キャンペーン」の時はちょっと息を吐くところもあったんですが、それも今、
中止しております。その中でとくしま周遊クーポンそして三好で行われて
おりますGo To秘境三好市クーポン、これを利用してくれる方が多数
おります。ここでも大変助かっていると思っておりますので、こういう支援は引

き続き、続けてほしいと思っております。

アフターコロナに関しまして、このにし阿波地域は感染者はほぼゼロといってもよい地域ではなかろうかと思っております。アフターコロナでは、皆さんどこの県もどこの市も、一生懸命観光客の誘致に力を入れると思うんですが、この自然豊かなにし阿波は感染者が少なかったというところをどんどんPRをして、現在この中にありますようにプロモーションビデオなど大変PRしていただいております。それを発信して外の方が見てくれるのもいいんですけども、地域のおじさんとかおばさんとか、高校生とかそういった方達も見ていただいて、ここ僕らんとところ、すごいんだ。というのを分かっていただけのように、スマホを開いたらすぐ上がってくるような、そういったものができたらいいんじゃないかと思っております。

そして最後になりますが4月4日の三好市の池田湖でようやくジオパークとラフティングとのコラボツアーを、コロナ感染に注意しながら開きます。前向きに進んでおり、少しずつイベントも自然の力を借りて進んでいけるのではないかと思っております。そして7月にはオリパラを筆頭に、また10月にはWMG（ワールドマスターズゲームズ）などいろんなイベントが形を変えてできるようになると思っておりますので、私たちも大変歓迎しております。

最後にこのにし阿波、徳島県ならではのフィールドを生かした新しい自然を生かすアクティビティを官民で増やしていきたいなと思っております。この文章の中にありますように果敢なチャレンジをして新しいものを作り出していくことが大切かなと思っております。以上です。

（委員）

前回の会議の時にもお話しさせていただきました、「スマートライフ先取り事業」の採択をいただき、12月10日に吉野川ハイウェイオアシスにカフェをオープンさせていただきました。目的としましては、にし阿波地域の事業者さんとの連携、にし阿波の魅力の発信、そしてにし阿波のお母さんたちの人材育成、輝くお母さんをたくさん作るという目的でオープンさせていただきました。たくさんの方にご来店いただきまして、ありがたく忙しくさせていただいております。その中でずっとずっと私自身も取り組んできたお母さん達の人材育成、スキルアップがとても重要であるということを実感しております。たくさんのお客様に来ていただき、たくさんのお客様に応募をいただきまして、うまく回っていくのかなというところではありましたが、やはり個々のスキル不足によってお店が回っていない状況も、多く続いております。そこで来ていただいた方は、県外の方も入っている時もありますし、徳島市内からわざわざにし阿波に来てくださった方たちにも、やはりにし阿波に来て良かった、ここにわざわざ行っていい思いができたという思いで帰っていただきたいということで、サービスを充実させていくためには、やはり人材育成が急務であるということで、毎週スタッフの人材育成に、今取り掛かっているところであります。地域のお母さんたちを見ていても、やはり学ぶ場がなかなかなくて、今、再教育リカレント教育ということですが、にし阿波にいてそのような機会があまり無いということで、スキルを上げたくても上げられない、そしてスキルアップが必要ということはまだ知らないお母さん達もたくさんいます。何度かお願いしておりますが、にし阿波の子育て世代のお母さんたち、女性のスキルアップ講座などを、実際の企業に務めたときに即使えるようなものを開催していただきまして、企業に就職したときに即実践できるような入口にさせていただきたいと思っております。やはり一つの企業でスキルアップ講座に対して、人材育成、やはり時給を払って講師を呼んでというそこにかかる費用も大変でして、そこがにし阿波全体の企業さんとスタッフが集まってできるようになれば、地域全体の底上げにもなると思いますが、スキルが上がることによって子どもに対する教育も変わり、家庭にも笑顔が増え、地域にも笑顔が増えていくと思っております。また色々協力しながら、新しい取り組みができていけばと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(委員)

まず阿波池田商工会議所としましても、この前、第4弾として会員にアンケートを取り、三好市に色々な、コロナに対してのさらなる支援策というお願いをしたところです。県でも本当に素早く、そしていろんな支援の方をしていただいて、本当に感謝しております。本当にありがとうございます。私も前回意見をさせていただきましたがアフターコロナに向けて政策の中でいろいろな取り組みがなされるということで本当に期待しております。企業としても十分に協力をしながらやっていきたいと思っております。

その中で色々な魅力の発信をしながらU・I・JターンをPRしていくということなんですけど、特にUターンの学生に卒業する前に、企業からのアプローチがありますが、県としても色々な就職マッチングの案内だったり、そして実際にこういった企業があるんだよという案内で、直接的な草の根を生やしたようなアプローチを、機運が高まっているうちに、更に加速していただけないかなと思っております。先ほど話もありましたけども、就職希望者、またマッチングして弊社に来ていただくとか、いろんな企業で就職する方を探すこともすごく難しいことになっておりますので、この機運が高まっているうちに、スッパリとなっていただくために、よろしく願いできたらと思っております。

もう一つお願いしたいことが、コロナ禍は本当に良いも悪いも大きな影響を与えたなと思っております。事務所に事務の職員がいて営業職は机もなく直行直帰で、いろんなところに営業をかけるという方向に舵を切ったりですね、本当に働き方ということが多様になっている中で、今、ここの政策の中でもありますように、ワーキングホリデーであったりコワーキングスペースっていうのを十分に活用できる施策というのが盛り込まれておりますので、そのあたりすごく期待をしながら、企業としましても、働き方の中でワーキングホリデーということで来られた方に、就職して働いていただける環境づくりというの、しっかりと対策をしていかなければいけないなと考えております。そういった面でも県の支援もお願いしたいなと思っております。

これは県にお願いすることか分からないんですけども、デジタル化ということで、色々知事さんも力を入れられて、徳島県と言うと全国でも良いブロードバンド環境をつくっていただいていると思います。携帯のキャリアによって違うと思うんですけど、三好市の山を走っておりますと一部圏外になる場所があったり、トンネルの中は結構ありますが、そういったところも充実していただけるような、働きかけをいろんなキャリアの所にも発信していただけることがあるんでしたらお願いできたら、全県どこでもくまなくというイメージもあるんじゃないかなと思いますので、宜しく願いしたいところでございます。以上でございます。

(委員)

3点意見を述べさせていただきたいと思っております。1点目が資料6の51ページにあります、ミックスワーキングの推進をぜひお願いできれば、2点目がサテライトオフィスそして地元企業との交流会をお願いしたい、3点目がDMOの横連携をより強化していただきたいの3点でございます。

まず1点目のミックスワーキングに関してですが、企業で働いていると繁忙期と閑散期がございます、ある時は人が全然足りない、またある時は今いなくて大丈夫かな、という時期があります。それでこの地域全体でスキルのシェアをすることで、人材の育成もそうですし、企業にとっての負担も減るんじゃないかなということでミックスワーキングをお願いできたらと思っております。

また2つ目がサテライトオフィスと地元企業との交流会でございます。こちらはですね、このコロナの時期でお願いするのは大変恐縮ではございますが、我々が徳島県だけではなく、山口県であったり熊本県の菊池であったりとか全国にサテライトオフィスを出しているわけですが、その中でも人との繋がりがあれば知らない地域でも進出しやすい空気が出てきますので、そういった横のつながり縦のつながりを是非お願いできたらと思

います。

また3つ目がDMOの連携強化でございます。私このような格好をしておりますが、人力車の車夫もしております、今はなかなかコロナで厳しいところではあるんですけど、ワクチンもできてきて、今年末にはひょっとしたら観光が復活するんじゃないかという話も聞いております。うだつの町並みだけでその大量に入ってくる観光客に対応しきれないところがあると思いますので、西部圏域もそうですけども東部だったり南部だったりとの連携の強化をお願いできればなというところなんです。そうすれば私の溜まったお腹の贅肉もなくなるんじゃないかと思っておりますのでお願いしたいと思っております。以上でございます。

(局長)

冒頭に説明させていただきましたとおり、飯泉知事から今皆さんの仰ったことに関しましてコメントをお願いします

(飯泉知事)

今、全ての委員の皆様からご提案、あるいは現状についての認識、こうしたところをいただきました。本当に貴重なご意見ありがとうございました。

順次、お話を申し上げていきたいと思っております。

まず、「路網整備」ですね。これについては、ちょうどコロナ対策ということで、この路網整備、県単事業にならないものまでも、これを取り込んで、しかも早期発注ということで、山に仕事を増やす、これによって、今まで課題だった、路網がないから切り出せない、こうしたところを切り出すように、ということで、逆にコロナ禍のピンチをチャンスに切り替えていこうと進めてきたところでございます。また、林業アカデミー、採用のお話をいただいたところであります。今回5期目、大変申し訳なかったんですけど、競争倍率が4倍になっちゃってるんですよ。1人の卒業生に対して、4箇所からお声がかかるということがありまして、そういう意味でも、もっともっと多くの皆さんをUIターンでこのアカデミーに迎えようと、今回の第6期生については、過去最高の数、合格を出させていただいているところです。こうしたニーズにもしっかりとお答えするとともに、県西部と県南部の高校にはそれぞれ林業をメインとする、つまりこちらですと、池田高校三好校、県南では、那賀高校森林クリエイト科、こうしたところからも直接、川上、川中、川下それぞれに採用いただいているところであります。しっかりと求める人材を作り上げていければと考えていますので、また、育成の際には、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

次に、2点いただきました。建築、土木、状況がいい業種もあるということで、こちらにつきましては、平成30年度当初予算から、国土強靱化、県土強靱化を進めていこうということで、県議会から公共事業、対前年100億円増、しかも史上初の全会派、こちらの皆さん方からの要請をいただいて、全国の先陣を切って、平成30年度当初予算128億円増とさせていただいて、ただこれだけだとなかなか続かないので、これを全国知事会を通じて、国に対して、全国知事会としての政策提言にし、直接安倍総理に申し上げ、そして平成30年度の補正から、30、31の令和元年度ですね。令和2年と、今年度まで3か年の「防災・減災、国土強靱化3カ年緊急対策事業」7兆円、これができあがったんですね。これを活用し、さらに知事会長として、この後継、5か年事業を提言をし、与党の皆さん型にもご協力をいただいて、実は今年度の補正からこの5か年事業がいよいよスタートを切る、今度は5か年で15兆円となったところでありますので、徳島としては、令和3年度、今当初予算について審査いただいておりますが、久方ぶりの1,000億円台を越えて1,006億円の公共事業、特にこの中でも県単の維持管理、例えば河床が上がりすぎて、これを何とか下げることはできないか、いきなり堤防を作り上げることは時間がかかりますので、多少下げることであれば、地域の土木事業者さんにとりかかっている

ただける、かつては40億円台だったものが2か年連続で77億円台にあげ、しかもこれもちゃんと財源が続くように100%県単費、キャッシュだったものを政策提言を行った結果、これを起債事業として平準化をするとともに、後年、交付税という形で7割返ってくる。こうした形で、この77億という史上最高の金額を2年連続で用意して、こうしたことが、さっきおっしゃっていただいた業界を支える、人材を育成、また雇い、さらには投資ができるという業界になってまいりました。コロナ禍において、何とか多くの皆さん方、特に中山間地域の雇用・経済を支えていただいております。さらに事業承継のお話がありました。こちらも、とくしま産業振興機構、ここに、例えば「よろず相談」の関係とか、あるいは人材のマッチングといった拠点を用意しております、きずなプラザでは、商工会議所の皆さん方も、また商工会の皆さん方も、こうしたものを一体として取り扱っていただいているところですので、また、ぜひご相談を、あるいは、そういったことで悩まれている方が多いということですので、そちらの方にぜひ連絡を、また、場合によっては、商工労働観光部へ相談いただくとアドバイスできると思います。

次に、四国の観光で、自らウイズからアフターを俯瞰されてご提言をいただきました。やはり、「観光を」ということになってきますと、単体でやっていくというよりも、ここは各圏域でやっていくと、実は四国は4県、そして、JR四国が組みまして四国ツーリズム創造機構、ここを推進母体として、四国DMO、これを今作って対応している。徳島の場合、実は、四国だけじゃないですね。あとは特に「せとうち」にも入っております、「せとうちDMO」、また関西広域連合のメンバーでもありますので、実は3つのDMOに関わってくるということで、希有のエリアが徳島であり、にし阿波であるということです。我々としても例えば、関西のDMOでは当面考えられるのは、先ほど委員さんからもお話がありましたワールドマスターズゲームズが来年行われますし、さらには2025年の「大阪・関西万博」、実は徳島県は、これを成功に導く役割、つまり誘致した主体の一つでもありますので、こうしたものをしっかりとターゲットとしながら、これらのDMOとしっかりと連携をしていく、また今年の秋には、JR6社が四国を売り出す「四国 DESTINATION キャンペーン」が再びやってくるということがありますので、まさに絶好の機会と、そして来年は、全国の高校総体、これを徳島がメイン会場となって、四国4県でやるということにもなりますので、これらの多くの事業を、これらのDMOと連携する中で、しっかりと行っていきたくてこのように思います。そうやって参りますと様々なところで花も必要となってまいりますので、ぜひよろしく願いいたします。

また、「入魂」、この統一ブランドのお話をいただきました。こちらについては、半田そうめんという、日本で唯一の太さを誇ったうどんでも、そうめんでもない勝てない半田そうめんという独自のエリアこれを作り上げ、しかもばらばらだったものを「入魂」という統一ブランドで売り出していただいて、2018年の乾麺グランプリ、こちらで優勝されて「日本一」の乾麺ということにもなったところでありますので、ぜひ徳島県としても様々な点で、半田そうめん、売り出して行ければと思っております。そういった意味では、「とくしま特選ブランド」など他の賞品と連携をされている、またにし阿波、ここは特に世界農業遺産のブランドとして様々なものがありまして、例えば、干し柿をチップスにしたものとか、こうしたものも、実は、「とくしま特選ブランド」に入っておりますので、そうしたものと共通ロットの中で売り出していく、あるいは合わせ技で一つのパッケージ化をして、この世界農業遺産ブランドで売り出していくと、こうしたこともあり得ると思いますので、ぜひさらに一歩進めていただければと、我々としてもしっかりとバックアップをさせていただきたいと思っております。

次に、農業の今後のあり方についてご提案いただきました。まさに、今日、農業大学の卒業式に午前中行って参りましたけれども、若い皆さん方が、農業に参入していただく、さらに今DXということで、デジタルトランスフォーメーション、今は例えば耕耘機にしても無人で操作ができますし、あるいはレンコン畑などで、蓮池につかって農業を撒くと

重労働だったものを、GPSのドローンで、立ちどころに今これができると、本当にこのスマート農業っていうのは一番合ってきた、DXに合うのは農業分野じゃないのか、もちろん林業もそうなのですが、ということで我々としてはしっかりとDX、スマート農林水産業、これを実践しようということで、実は今月の中旬に、日本の先陣を切りまして、ローカル5Gを県立農林水産総合技術支援センター、農業大学校、こちらの方に、「Sub-6（サブシックス）」という最先端のローカル5G、4.8ギガヘルツ帯を、これ使えるようにしよう、そしてあのエリア一体を5Gが使える基地局を作り上げていくということで、農大に来られる皆さん方にしっかりと、日本最先端の5Gを使うとどうなるか、という新たなスマート農業を体感していただくとうこのようにも考えておりますので、多くのお仲間の皆さん方にもPRをしていただければと思います。

次に、DXに関わる点、ご提言をいただいたところでもあります。テイクアウトはもとよりのこと、システム改造、このことについては、新しい生活様式応援導入助成金として、店舗改造の場合は100万円、空気清浄機などを入れる場合には50万円、テイクアウトなどシステムを改修して行く場合には20万円、こうした事業も作らせていただいております、しかも期間延長をさせていただいておりますので、まず、そうした様々な新しい生活様式とDX、非常に合うサテライトオフィスなど、委員さんからいただいたところがありますが、ぜひDX時代に合うプラットフォームを作り上げようというお話もいただいたところでもありますので、県としてもしっかりと応援をさせていただいて、このにし阿波のエリアにDXのポータルサイト、プラットフォームを築き上げ、それを大いに活用していただくとうこうした形にできますように、我々としてもしっかりと後押しさせていただければと思います。

次に、西部防災館の取り組みをご紹介いただきました。たしかに、ウィズコロナの時代となった避難所生活ということがありまして、非常にご苦勞をおかけしているところでもあります、これを日本で最初に、鳴門渦潮高校において。各市町村の皆さん方が、このコロナ時代に適応した避難所生活をどうしたらいいのか、なかなかここはわかりづらいという声がありましたので、実際に実践をしていただいて、これを実は4Kで撮りまして、そしてこれをビデオで、あるいは冊子などで、各市町村、あるいは自主防災組織の皆さん方へお配りさせていただきました。これによって、百聞は一見にしかずということで、コロナ対策を行った新しい避難所生活、こうしたものをぜひ体感していただく、またさらに深化させていただくとという意味で、西部防災館の運営に当たりまして、どうぞよろしく願います。

また、子どもの遊び場が美馬町の方では少ないといったお話ありましたが、美馬市長さんにあつい思いでお答えをお願いしたいと思います。

次に今度は、ジオパークのお話をいただきました。また、先般はご案内をいただきました、本当にありがとうございました。しかも、アフターコロナに向けての次のお話もいただいたところでもあります。たしかに、ジオパーク、あの地層といったものは、なかなかあるものではありませんので、観光資源としてはもとよりのこと、様々な「地質学」といった点でも、これは大きな研究対象となってくところでもありますので、これを一つの観光資源としていくという、新たな切り口からにし阿波の観光を見いだしていく、しかも吉野川とセットということになりますので、これからも様々な形でのPR、そして今、コロナ時代になってネットがものすごく発達しているということで、先ほども5Gの紹介をさせていただいたところですが、ぜひネット上で、コンテンツとしてどのように発信をしていくのかといった点についてもお考えをいただくとともに、ここは若い世代の皆様がかなりおられますので、DXでこんなんやったらどうだろうか、とか、先ほど委員さんの方からプラットフォームのお話もありましたので、様々な業種が合わさって一つの「にし阿波」というプラットフォームを作って発信をしていく、こうしたやり方もあり得ると思いますので、ぜひこうした点について西部総合県民局でもご協力させていただきまますので、様々

なご提案をいただければと思います。

次に、社協での大変なご苦勞話をいただきました。まさに、コロナ禍におきまして、社協の皆さん方には、お話にありました生活福祉資金の借り入れが、史上最高となっているところでありまして、大変なご苦勞をおかけしておりますし、また、フードバンク活動を行っていただいて、特に子どもさん達の貧困問題であるとか、生活困窮対策、しかもこれを行っていただくことによって、もう一つ大きなメリットであるフードロス対策、エシカルですね、こうしたことについても率先垂範していただいておりますので、これからもこの活動、何かお困りの点がございましたら西部総合県民局の方へお話をいただければと思います。

そして、今、大きな社会問題となっている「自殺対策」。実は、これ警察庁の方から暦年で数字が出されておりました、昨年1年間の数字が出ました。全国では自殺者がやはり増えたところなんです、徳島は対前年でいうと微減ではありますが、まあ増えはしなかった。しかし、全国共通の傾向というのは、10月、11月に、特に先ほどお話しがあった女性と若者の自殺が急増したんですね。これは徳島も同様でありまして、自殺を考えている方は、必ずサインを出すということを、我々県民の皆さんにもPRをさせていただいておりますので、しっかりとこうしたものの対応、特に、夜中であるとか、非常に悩んだ、あるいは一人でぼつんという時、こうした相談を電話で、あるいはネットで、しかもSNSなどLINEをはじめ様々なツールがあるわけでありまして、手厚い相談体制を十分に充実をする、ただこの場合には、必ず社協の皆さん方にもご協力いただくこととなりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

次に、様々な「Go To」はじめ、観光、今後の対策のお話をいただいたところであり、実は、先ほど委員さんからもお話いただいた、県西部の商工団体の皆さん方と、県西部は徳島で唯一、商工会議所と商工会が一体となって、しかも商工会については、三好の商工会と東みよしの商工会、こちらが一緒になって、阿波池田商工会議所と常に一つの対応をしていただいております、県下コロナ対策の影響、一番最初に、県西部におじゃまさせていただいて、「Go To」がスタートを切る前の「とくしま応援割」、この制度もその中から提案をいただいたものであります。実は、我々も考えてはいたんですが、「県民の人たちが、県内の施設に魅力を感じていただけるのか。」、実は、否定的な意見が多かったんです。しかし、このにし阿波で相談させていただいたところ、「絶対いけるだろう。」と、「それよりも、『Go To』よりも早く。」ということで、全国で3番目、6月8日からスタートを切った。実は、6月19日から、当時の菅官房長官が「都道府県をまたがる移動OK」と、それまではだめだったんですね。だからその先陣を切って、徳島が「応援割」、それぞれ県人の人が、県内施設に泊まった場合、その施設で食べる食事代を含め5,000円を引く、当初10,000人に予定してたんなんですが、42,500人泊を超えたんですね。ということで、「Go To」の休止が始まった。ということで一旦はやめていたんですが、今回南の方に行った時に、「冬枯れ」ということがあって、冬の応援割を作ってくれと、こうした形で、「冬の応援割」を行い、しかも「Go To」が止まったものですから、実は、「徳島で得するケン」5,000円対象となって土産物を買ったり、外食にも使えと、あるいはタクシー、代行、バス借り上げ、これによって、同じ「Go To」でも「徳島において」というのをやったんですが、「Go To」が決まったものですから、この券が使えなくなっちゃった。だったら、それを「冬の応援割」にくっつけたらいいじゃないかということで、2月の分だけは、それをくっつけて1万円の支援にさせていただいたところ、立ちどころになくなり、3月からは新たにそれを想定して、1万円の応援割をスタートを切ったところでありまして、「Go To」についても全国知事会から今日、朝7時から諮問委員会があって出ていたんですが、ちょうど1都3県の緊急事態宣言を2週間延長するといったことを是とするか非とするかというその諮問委員会だったんですが、この「Go To」につきましても、ぜひ、東京、神奈川、千葉、埼玉、ここは難しいんですが、それぞれ感染状

況の低いところについては、その県だけ、うちでいう「とくしま応援割」に「Go To」をはめると、あるいは四国でやるとか、こうしたものを順次認めて行ってほしいと、全国知事会からも既に提言をしているところでもありますので、おそらく、順次そのようなかたちになってくるのではないかと考えております。

次に、お母さんたちの人材育成、大変苦勞してるんですよというお話をいただいたところでもあります。また、企業の皆さん方にとって、女性の皆さん方の即戦力、これ以上ありがたいことはないところでもありますので、ぜひ頑張ってくださいとともに、「そうは言ってもなかなかにし阿波ではね。」というお話もありました。そこで、「平成長久館」、こちらの事業、とくしま産業振興機構の方で、実は私が館長となって、各企業、団体の皆さん方の第一線で働く人、そして中間管理職、経営者の3つのエリア、階層に分けて、アップデートなテーマ、こうしたものを行うとともに、オーダーメイド方の講座も行っておりまして、多くの企業、団体の皆さん方にご活用いただいております。また、うちの商工労働観光部、あるいはとくしま産業振興機構にもお話をいただきまして、こういった形で、お母様方のニーズ、実は女性向けの講座もたくさん作っているところでもありますので、どういう切り口であれば連携することができるのか、こうした点、考えていければと思いますので、是非ご相談いただければと思います。よろしくお願いいたします。

次に、「これから様々なUターン、Iターン、Jターン、そうした若き人材たち、あるいはこちらへ帰ってくる人材たちが、なかなかにし阿波にはね。」ということでありまして、実は県の方でも連携させていただいて、合同企業の就職面接会・セミナーをアスティーとくしまで毎年やっています。ただ今年は、一堂に会することは難しいということがあって、毎年、そういった形でやっているところではあります。委員さんは、阿波池田商工会議所の副会頭でもいらっしゃいますから、ぜひ商工会議所の中でご提言をいただきまして、そういったマッチングの会、例えば、もう少し西に近いところでやってくれないか、あるいは、Webでやっていくと、どちらかと言えば、Web面接の方が、若い皆さん方も安心するということがありますので、やはりこれからはウィズコロナからニューノーマル、アフターコロナへということになりますと、Webで行っていけば、どこにいてもできる、場合によっては、それを関西本部でやると大阪を中心とする皆さん、あるいは東京本部の方が主催でやると関東地方の皆さん方と、わざわざこちらに来ていただかなくてもできると。そして、県人の皆さん方も、大学が向こうということもありますので、そういった方々にも集まっていたく、それぞれの東京に、大阪にと。そしてそこでネットをもって面接を行うと。こうしたことも有りだと思っておりますので、こうしたもののシステムをどうやっていくのか、こうした点をご協力させていただければと考えています。

最後に一つお話いただいた、途中で携帯とかスマホが切れるというお話ですが、トンネルはトンネルの中に基地局を置くかどうか、それぞれのキャリアの判断ということになりますし、キャリアはニーズのあるところには作らなければならないと高度通信網の法律の中で定められていますので、後は利用頻度、ここのところに関わってくるということになりますので、先ほどお話があった、いかににし阿波で使っていくのかというプラットフォームを作り上げていくかということに、いろいろなキャリアがありますが、その皆さん方にも入っていただいて、これは商売になるなと思っていただくと非常に利用勝手がよくなる、ただ5Gについては先ほど申し上げたように、大都市部を中心にキャリアは作っていきますので、我々地方としては、県が中心となって「ローカル5G」、これをどんどん作っていき、エリアの皆さんにこれを実体感、使っていただくと。工業技術センターにも、そう遠くなく、「Sub6（サブシックス）」を入れていくこととしていますので、その点についても、ぜひ関心を持っていただければと思います。

そして、3ついただきました。人材のシェアであります「ミックスワーキング」。今、公務員でも副業を推奨しようじゃないか、という時代になりましたし、また、「新しい働

き方」がどんどん進んでいく、その2番目のサテライトオフィス、コワーキングスペースなどのお話、委員さんからもお話があったところであり、今なんと言っても「テレワーク」、大企業中心として、「7割出勤するな。」と言っているんですね。だから、あの安室奈美恵を生み出したエイベックスも本社ビルを売りましたし、あるいは電通が作ったばかりの本社を売るんですね。つまり、東京に本社ビルがあっても意味がないんですね。3割の人しか出勤して来ないわけですから。だから、ここは地方の一大チャンスとなるわけで、いかに光ブロードバンド環境があり、できれば4Gではなく、5G、そして次の世代であるbeyond5G、これを駆使できるかどうか、ここが一番のポイント。ちなみに、beyond5G、日本としては2025年の「大阪・関西万博」を「beyond5G ready」ということで、ここをショーケースとして、日本はこれだけ進んでいるぞと、できれば標準化を、遠隔医療を確実にやっていこうと進めておりました、私が政府の委員の一人でもありますから。そして、この「大阪・関西万博」をターゲットにするべきだと提唱したのは私で、10年先が5年先と今なっておりますので、この点についても、ぜひ先ほど5Gのお話を申し上げましたが、関心を持っていただきたいと思います。

そして、DMOの話についても、先ほどから申し上げたとおりというところでもありますので、我々としてもしっかりと、そして各企業とサテライトオフィス、地元の企業の皆さんとの繋がり、この点については、まさに西部総合県民局の仕事ということになりますので、そうした点、いつでもおっしゃっていただければと思います。リアルがいいのか、あるいは、リモートがいいのか、ハイブリッドがいいのか、そうした形で、ただちに明日からでも進めていければとこのように考えております。

各委員の皆様、本当にありがとうございました。そして、冒頭お話あったかもしれませんが、首長の皆様方にも大変申し訳ないのですが、これからコロナの患者さんの発生を受けて、こちらから会見を行う予定にしております。そして、その後、県庁へ戻りますと、緊急事態宣言の延長を8時から対策本部、9時から総理会見ということになりました。その前に、県の方からも、今後の対策を発表させていただく予定です。

ここで中座をさせていただきます。本日は、皆様、どうもありがとうございました。

(局長)

それでは会議を再開させていただきます。これからいただくご意見に関しましては、事務局で取りまとめ知事ご報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは計画推進評価部会より副部会長さんに出席いただいておりますので、ご意見お願い致します。

(副部会長)

この1年、新型コロナウイルスで大変な思いをされたことと思います。教育関係におきましても休校とか遠隔授業とか初めて体験するようなことばかりで激動の1年間でありました。またまだまだ来年度も引き続いて大変な年になるんじゃないかなと教員一同思っております。しかしながらこのアフターコロナを見据えて、これを乗り切らなければいけないというのは皆さんも同じ気持ちだと思っております。

そのためには三つの国難というのがここに出ているんですけど、この三つの国難を逆手にとって徳島県の西部圏域をどんどん発展させなければいけないのではないかと思います。例えば、先ほども沢山出ておりますが在宅勤務とかリモートワーク、自宅活動がどんどん増えております。徳島県は全国的に見ましてもサテライトオフィスの先進県、この脇町にもサテライトオフィス、池田の方にもサテライトオフィスと沢山企業が来ております。このサテライトオフィスの更なる誘致を図ったり、IターンUターンJターンのさらなる推進を行ったり、また重点目標の1にありますように、にし阿波のプロモーションの推進など、すでにやられていると思いますが、豊かな自然が多く残るこの西部圏域、田舎はも

っともっとアピールしたら良いのではないかと思います。先日のテレビをご覧になられた方もおられると思いますが、放送のタイトルが近未来創世記、日本を救うやばい偉人というタイトルのテレビなんですけども、そこで美馬市出身で脇町高校から東京大学に行かれて、今現在ベンチャー企業として水処理関係の製造開発会社の社長なんですけども、この人が美馬市の水の良さというのを話されていました。多分これは穴吹川かなと思いましたが、田舎の良さ、これはもっともっとアピールできたら、もっともっと発展していくんじゃないかなと思います。こういう観点も含めまして評価部会の方でもしっかり評価させていただきたいなと思っております。以上でございます。

(局長)

市長さん、町長さんからご意見をお願いしたいと思っております。本日は議会日程の都合により三好市さんがご欠席されております。

それでは最初に美馬市長さんよろしくお願いいたします。

(美馬市長)

まずは局長はじめ県職員の皆様方、また委員の皆様方、お集まりの各市町の皆様におかれましては、常日頃より美馬市政の推進に格段のご協力を賜っておりますことに関しまして、ありがとうございます。知事もお帰りになりまして大変お疲れのところ恐縮でございますが、私からは本市におけます新型コロナウイルス感染症対策や高病原性鳥インフルエンザの発生、来年度の取り組みなどにつきましてお話しさせていただきたいと思っております。

まず最初に、新型コロナウイルス感染症対策についてになります。感染症対策の決め手といえる新型コロナウイルスのワクチン接種につきましては先般2月1日、保健師などを中心とした「美馬市新型コロナウイルスワクチン接種業務プロジェクトチーム」を設置したところでございます。今後におきましては徳島県や市町村の保健福祉部局や医師会また医療機関、半田病院のあるつるぎ町さんなど関係機関と綿密かつ迅速に連携をとり、速やかにワクチン接種ができますように取り組んでまいりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いを申し上げます。

また、高病原性鳥インフルエンザについてでございます。先般2月美馬町の養鶏場におきまして、県内で2例目、本市では初めてとなる高病原性鳥インフルエンザが確認をされました。それを受けまして県におかれましては、消毒や搬出制限など主体となって対応いただき、本市におきましても対策本部を設置いたしまして、給水活動や保健師等の派遣など後方支援を行いました。以後、新たな鳥インフルエンザの発生が確認されることなく昨日4日に移動制限が解除されました。県職員の皆様におきましては昼夜を問わずご尽力を賜りまして、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

次に、吉野川環境整備組合の水処理施設整備事業につきましてでございます。この事業は令和2年から令和6年にかけて国の交付金を活用し、新処理施設を整備するものでございまして、令和3年度は汚泥処理施設の整備の本格化を致します。交付金の活用など事業の推進に向けて県の職員の皆様方にご指導を賜りましたことに、感謝を申し上げますとともに、つるぎ町さんとともに連携をしっかりと図り、事業に取り組んでまいりますので、今後ともご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

次に、本市における教育現場のICT化に関しましてでございます。現在「GIGAスクール構想」に基づきまして、美馬市内の小中学校に一人一台のタブレット型端末や高速大容量の通信ネットワークの整備を行っているところでありますが、先月、株式会社日経BPから発行されました、公立学校情報化ランキング2020、これはインフラサービスと教職員の指導力をランキングにしたものです。本市におきましては小学校部門で全国第3位、中学校部門で全国第6位、そして両部門とも四国一との高い評価を受けました。本市の目指すは日本一でございますので、いよいよそれも見えてきたかな、と考えております。

令和3年度予算におきましても、ICTを活用致しました学習教材の導入経費を計上するとともに、ICT支援員を増員をすることとしておりますが、今後とも新しい時代を生きる子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばす取り組みを進めてまいります。

次に、美と健康をキーワードとしたまちづくりであります。令和3年度は国の「地域おこし企業人制度」を活用し、新たに全日空（ANA）から職員を受け入れまして、一般財団法人日本総合研究所や徳島大学と連携をし、人生100年時代に関するオンライン講座やモニター受講そしてワークショップ、高齢者施設での美容体験など、人生100年時代を美しく健康で暮らすことのできるまちづくりにチャレンジをして参りたいと思います。

また、脇町小星地区に整備を進めております移住交流促進拠点整備事業につきましても、県有地の取得にあたりまして徳島県のご理解そして県関係部局の皆様のご尽力をいただき、改めてお礼を申し上げる次第であります。令和3年度は世代を超えた多様な人々が集う活動拠点であります地域共生交流施設の整備や大規模災害発生時の防災用物資の集積拠点、市内の幼稚園小学校中学校の給食を一元的に担います学校給食センターなどの造成工事等を進め、農業・防災・食の分野の連携によります本市ならではの生涯活躍のまち創りに取り組んで参りたいと思います。

最後に、安全安心に生活できるまちづくりについてであります。令和2年度より本市では地域防災マネージャーの資格を有します自衛官OBを防災対策官として採用し防災減災対策に力を入れておりました。令和3年度予算におきましてはさらに市役所駐車場、平時は駐車場、有事は屋外防災拠点となるハイブリッドな施設として整備をするほかWeb版を含むハザードマップの改定、また引き続き全職員の防災士の取得、市内企業における防災士の資格取得養成に取り組めます。

また、指定避難所での新型コロナウイルス感染を防止するため、自宅での避難を想定いたしました備蓄物資等の購入経費を市が負担する分散避難促進事業に取り組むなど、ハードソフト両面から具体的に防災減災対策を進めてまいります。

また、デジタル社会の実現ということでこれまで発表をしておりませんが、来年度よりデジタルトランスフォーメーション推進課という課を新たに設置しデジタル社会の実現に向けて取り組みを進めて参りたいと思います。

以上、簡単ではございますが私の方からのご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

先ほど委員さんからご意見を賜りましたキッズスペースの件でございますが、地域の未就学のお子様と保護者の方々が一緒に遊べ、また、子育て情報の交換なども行える場所と致しまして今現在地域交流センターミライズの中に子育て支援センター「みらい」を運営しております。どなたでも登録でき気軽に利用できると大変好評です。また委員さんのご意見の中では脇町が遠いというようなこともございました。これと同様の施設が美馬町のキッズスペースといたしまして、美馬認定こども園の中に「子育て支援拠点なかよし広場」を設置し運営しておりますので、こちらの方ですとまだまだ定員の方が空いているようでございますので、是非ご利用いただきたいと思っております。

（つるぎ町副町長）

つるぎ町でございます。いつも皆様には大変お世話になっております。この計画につきましては特に意見はございません。これに沿って事業を進めていただけたらと思っております。以上です。

（東みよし町企画課長）

本日町長が出席をさせていただく予定でしたが、どうしても外せない用事が入り、急遽欠席をさせていただきました。大変申し訳ございません。代わりに企画課長が出席をさせていただきます。

にし阿波地域の一員としまして、会議を始め、市町の皆さんとともに、この地域の振興

と活性化に取り組みをさせていただいておりますことにつきまして、感謝申し上げます。本町におきましては昨年の12月に町の第2次総合計画を策定いたしました。この計画は実施計画の部分をまちひとしごと創生総合戦略と位置づけ、人口減少の歯止めと安全安心・地域の活力の維持のために2029年までの10年間様々な政策を展開していく予定で西部圏域振興計画とも方向性は一致するものとなっております。

本日の委員さんのそれぞれの活動の現場からのご意見やご提言を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止やまたその収束後の社会の変化や新しい価値観に対応するべく皆様とともに取り組んで参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

(局長)

以上をもちまして、本日予定しておりました全ての議事は終了いたしました。

本日御出席いただきました皆様方から大変本当に貴重な意見をいただきましてありがとうございます。今後ともこのご意見等を振興計画を始め、生かして参りたいと思っておりますので、どうぞ引き続き宜しくお願ひ致します。

本日いただきました議事の内容は事務局で会議録を作成した後、委員の皆様にご確認いただいた上で、お名前を除きまして県のホームページで公表させていただきたいと考えておりますので予めご了承いただけますようよろしくお願いいたします。

(副局長)

それでは以上をもちまして、令和2年度第2回徳島県西部地域政策総合会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました